

19. 《中国の宋で起こった技術革新》

平清盛が、積極的に交易しようとした宋は、どのような国だったのでしょうか？

中国は、宋の時代（960－1279 年）になると、科挙（注1）と能力主義による新しい統治システムが築かれたことから、科学技術の適用と普及が進み、広域流通市場経済が出現しました。最先端国家に躍進し、首都開封（かいふう）は、人口百万人を擁しました。

その様子は、首都開封を描いた『清明上河図』にみることができます。水上交易の様子と街並みが詳細に記されていて、商店街の前を人やラクダや馬が行き交い賑わっています。

こうした広域流通経済を支えた主要な技術革新は以下の通りです。交易分野では、造船の大量生産システムが構築されたほか、交易を支える銭貨が大量に発行され、世界初の紙幣も登場し流通します。

工業分野では、製鉄の生産方式にも技術革新が起こります。鉄鉱石を熔融するときの燃料として、木材に変わって石炭を蒸したコークスを使う精錬方法が発明されます。当時の鉄生産量は、18世紀ヨーロッパ全域の量を上回っていました。

農業分野では、二毛作が普及し、施肥技術や稲の品種改良もなされました。揚子江周辺の干拓も進みました。産物や製品は、黄河と揚子江を繋ぐ大運河を通じ行き交いました。

人文社会分野では、支配階級が貴族から士大夫（科挙を通った官僚）層に代わり、科挙試験科目の儒学が盛んとなり、また仏教においても、士大夫層には自己啓発的な「禪宗」（注2）が、庶民層には極楽浄土への往生を願う「浄土教」（注3）が盛んとなりました。

鎌倉幕府が成立して約半世紀後に、地球寒冷化を促進する出来事が起こります。モンゴルに圧迫されていた宋は、一層弱体化していき滅亡します。最近明らかにされたその出来事とは、何だったのでしょうか？

注 1：科举 国家公務員試験

注 2：禪宗は達磨（だるま：5 世紀末に中国に來たインド僧）を祖とする宗派

注 3：浄土教は、2 世紀ごろインドで生まれた大乘仏教の一つで、中国で発達

写真は、北京故宮博物館の「清明上河図」から、①船と橋の賑わい、②行き交う街路と商店
平清盛が、積極的に交易しようとした宋とは、どのような状況だったのでしょうか？

①



②

